秋穂放牧利用組合が夏場の水田放牧に向けて牧草を播種しました

山口農林事務所畜産部
平成23年５月９日

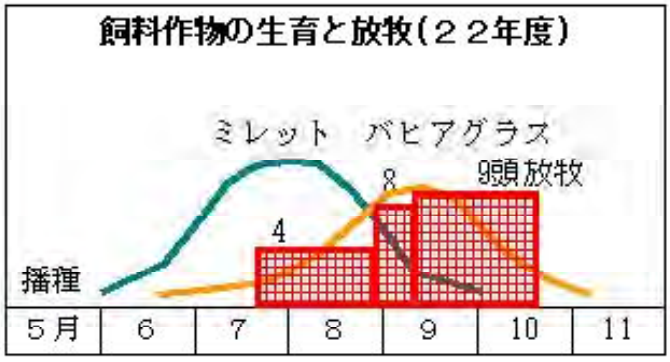
平成23年５月７日(土)、山口市秋穂の秋穂放牧利用組合(組合員12名、福江史朗会長)が２年目となる夏場の水田放牧に向けて準備を開始しました。

同組合は、牛農家ができるだけ長い期間放牧できるように、独自の牧草(飼料作物)栽培方法として、早めに伸びるミレットと、秋口まで伸びるバヒアグラスの２種類を同時に播いています。

昨年は、同市鋳銭司で肉用牛を飼育しているＮさんの繁殖雌牛７頭と、美祢市美東町のＩさんの繁殖雌牛２頭が利用しましたが、今年も７月中旬から放牧を行う予定です。

山口農林事務所畜産部では今後とも水田の畜産的な利用を進めるため、耕種農家への牧草の栽培指導や、牛農家と連絡・調整などについて指導・支援することとしています。

放牧用水田で耕起・播種



牧草と放牧牛の関係